

資料①デフフッドの例

この資料は、「第54回全日本聾教育研究大会の授業研究分科会 大宮ろう学園中学部研究 資料『デフフッドを取り入れた授業レポート』」より一部を抜粋したものです。

国語

【国語：漢文「論語」(三省堂「現代の国語3」pp.124-127)】

[教材の内容]

「論語」は今から2500年以上前の中国の思想家、孔子とその弟子たちの現行録であり、仁を中心にした儒教の思想を記している。

[デフフッドとの関係で新たに加えた実践内容]

「学んで時に之を習ふ、亦説ばしからずや。」

→「物事を学んで、後になって復習する、なんとうれしいことではないか。」

学習、復習し、身に付けることでなぜうれしいのかを問う。孔子の生きた時代は、皆が勉強できる環境ではなく、知りたいことがあっても知ることができないことも多かった。そのような環境だったからこそ、新たな知識を得ることで、心のわだかまり、曇りが晴れる。こういったことがこの言葉に込められている。

この時代は、何かを学ぶときは書物よりも師の言葉を聞いて知ることの方が多く、自ら動いて学びに行っていた。もし、みんながこの時代で何かを知りたい、学びたいという状況になったらどうするか。周りは聴者、手話も使えない。そういったときに自分の知りたい、学びたいという気持ちとどう向き合うかを問う。また、そこを乗り越えたからこそ、孔子の言う「学んで時に之を習ふ、亦説ばしからずや。」という気持ちが理解できることを伝える。

【国語：小説「素顔同盟」(教育出版「伝え合う言葉 中学国語3」pp.246-249)】

[教材の内容]

「ぼく」の住む世界は、「仮面」を着けて生活することが法令化されている奇怪な世界。仮面は皆同じ笑顔である。その笑顔によって人々は争うことなく暮らしていると学校で先生は説く。しかしぼくはそのことに疑問を持っている。隣の友人に聞いても「先生の言う通り仮面のおかげなのだ」の返答。自分だけがおかしいのだろうか？不安と孤独に、喜怒哀楽を表現できない苦しみに苛まれていたぼくはある日、町外れで「少女」が仮面を外す、すなわち違法行為を目撃した。自分と同じように仮面に疑問をもつ人に出会えたのに、しかし保身のために声をかけることができなかつた後悔で、ぼくは彼女の夢を見る。夢の中の彼女は、ぼくに失望し軽蔑しているように見えた。その頃、噂されていることがあった。「素顔同盟」という一団が、社会や警察から逃れて生活しているらしい。また日常が続いていたある日、あの町外れの川に仮面が流れてきたのを見つける。ぼくはそれを拾い上げ、これは彼女のものに違いない、この機会を逃したらもう二度と会えないだろうと決意し、川の上流へ向かって歩き出す。

[デフフッドとの関係で新たに加えた実践内容]

・「初めて同類に会えた」自分たちの場合はどうだろうか。何を以って同類なのか？その同類と初めて会ったのはいつか？

この同類を「自分と同じろう者」として考えてみる。ろう学校で初めて会った同級生、健聴の学校から入ってきた生徒も同級生、と生徒は答えた。家族の中で自分だけが聞こえない、それが当たり前だったから、学校に入って初めてこの世界には、聞こえない人が自分以外にもいることを知った時の驚きがあった。「素顔同盟」に出てくるぼくの気持ちの読み取りにこのような「デフフッド」の視点を生かすことができる。

・「素顔同盟」で、ぼくはなぜ彼女に声を掛けられなかつたのか？保身のためだけでないのではないか？ぼくは、友人にも先生にも、自分の考えを伝えても認めてもらえなかった。今までずっとそうで、これからもずっとそうなのだろう。何度も何十回もずっとこの繰り返しであり、いつしかぼくには、決して消すことのできない諦めの気持ちができる。人生で、生まれて初めて出会えた、やっと出会えた同類=彼女にも、その気持ちが発動してしまった。だから、声を掛けられなかつたし、そのことを夢の中でさえぼくは悔やんでいる。

ろうの自分(生徒)たちはどうか？表現する経験が少ないから自信がなくて自分の考えを表に出さず内に秘める、やっと外に出してもうまく表現できない、伝えきれない、相手が受け取り違いや誤解をしてしまった、そうした経験はあるだろうか？

[事後評価(授業者の気付き、生徒の変化、今後また取り組む時に必要になる点など)]

・「初めて同類に出会えた」の設問に対して

今回はいなかったが、もしデフファミリーの生徒がいたらどのような答えになっただろうか？生まれた時から自分も家族もろうなのが当たり前だから、ここは同類=家族ではないのだろう。元々あるのが当たり前で、それを疑問にも思わない、そこにほかと違うものが存在し、それが自分と同じである時、初めてそれを「同類」と呼べるのだから。

また、単に自分と同じろう者だからすなわち同類、とは考えずに、自分と馬が合う、特定のことに関して自分と考え方が同じ人のことを同類とする生徒もいるだろう。今まで会えなかった、これから出会う可能性があるのだろう、という答えかたもあるだろう。

社会

【社会：日本の姿 中国・四国地方】

[教材の内容]

鳥取県は日本で最初に手話言語条例が定められた地方自治体。その後、他の自治体で制定が進み、2018年12月現在で24都道府県2区153市22町となっている。手話言語条例とはいかなる内容か、生徒たちとどのような関わりがあるかを知り、学ぶ。

[デフフードとの関係で新たに加えた実践内容]

手話言語条例についての全国の状況

[事後評価(授業者の気付き、生徒の変化、今後また取り組む時に必要になる点など)]

単元の中国・四国地方の鳥取県を扱う中で、手話言語条例を取り上げたが、全国初の制定地方自治体という位置付けだけでの展開には、やや唐突感があり、強引な流れであったことは否めない。が、生徒たちは我が事として捉え、授業への反応、食いつきはとても良好であった。特に、昔のろう学校では手話の使用が禁止され、使った生徒は体罰も含め、厳しく「是正」指導を受けていたことを紹介すると、デフファミリーの生徒からは家族のエピソードも出され、その理不尽さに共感しながら、活発に発言がなされた。

ろう者にとって手話を使うことは、生活において必要不可欠なことでありながら、普及や

理解はまだ緒に就いたばかりであり、今後は手話言語条例に基づいた条件整備が大きな課題となる。それらのことを踏まえて、生徒がろう者の一指導者として、自分たちから意見表明する姿勢を養うための一助となればと願う次第である。

【社会：日本の選挙制度】

[デフフッドとの関係で新たに加えた実践内容]

◎2019年の参議院選挙の比例代表制では、少数派である障害者の代表が当選することができた。

→れいわ新撰組の木村英子氏、船後靖彦氏が当選した。

・二人とも車椅子生活をしている。木村氏は、脳性麻痺を伴う重度身体障害者であり、船後氏は、ALC(筋萎縮性側索硬化症)患者である。二人の当選に伴い、議場にスロープを設置するなどの改修や解除車をつけるなどを国会に認めさせることになった。また、船後氏は、手足が動かせず、声が出せないため、目や口の筋肉のわずかな動きと文字盤で意思を伝えるため、秘書と介助者を同席させ、読み取りと代読をさせることを国会に認めさせた(先日、国会質問を行い、持ち時間25分を20分経過したが文字盤を使って内容を伝える時間は、持ち時間に含めないことが認められた)。このように、少数派の障害者が国会に代表者を送り、障害者の視点から国に意見を述べ働きかけられるようになることは、比例代表制の大きな成果である。

・聴覚障害者の議員は地方ではいるが、まだ国会にはいない。ぜひ、聴覚障害者の国会議員が誕生してほしい。

数学

【数学：資料の活用】

[デフフッドとの関係で新たに加えた実践内容]

埼玉県内に聾学校は2校しかなく、様々な地域から通学している。そこで、本校に通う中学部の生徒の通学時間を調べて、度数分布表を作ってヒストグラムや度数分布多角形を書

く。

【数学：二次関数】

〔デフフッドとの関係で新たに加えた実践内容〕

本校のオリンピックの記録の予想ではなく、2021年デフリンピックのハンマー投げの記録の予想を行うことにした。本校にデフリンピックで優勝した教員もいるため、生徒も興味を持ち取り組むことができると考えた。

理科

【理科：生命の連続性】

〔デフフッドとの関係で新たに加えた実践内容〕

遺伝子技術の発展について、2012年に京都大学の山中伸弥教授が「iPS細胞」を発見し、ノーベル生理・医学賞を受賞した。

「iPS細胞」とは何か

ヒトの身体には、筋肉や神経、血液、皮膚など約200種類の組織に分かれ、総合で60兆の細胞からできている。細胞一つひとつが持っているDNAは同じだが、それぞれ筋肉や神経、血液、皮膚などを作る役割をもっている。「iPS細胞＝人工多能性幹細胞」であり、この幹細胞から様々な組織を作り出すことができるようになった。

幹細胞から様々な組織を作り出せることから、例えば、爪を切り取ってそこから幹細胞をつくり、耳の中の仕組みをつくり、移植することで聴こえるようになるのは科学的に可能になった。実際に人間に実施するまでは、今から50年後ぐらいの話で、遠いような話だが、聴覚障害者や、肢体不自由者などに希望を与えられるような科学技術が進んでいる。

音楽

【音楽：日本歌曲 手話歌の取組】

[デフフードとの関係で新たに加えた実践内容]

- ・現在の自分たちの日常生活では使われていない文語体の歌詞の意味を紐解き、時代背景と共に情景を想像する。
 - ・作者の意図するところを理解して、手話で表現する。ペアになり、その歌曲のもつ魅力を引き出す表現方法を相談し、発表する。
-

美術

【美術：浮世絵、印象派、ジャポニスム】

[デフフードとの関係で新たに加えた実践内容]

日本国内に目を向けると、ピエロの連作を制作しているろうの画家八木道夫氏(2018 年現在 70 歳)が苦しさを跳ね返すように一生懸命に絵の修行をしてきことを紹介。

そんな彼が、『しかし年がたつにつれ、別の思いが強くなってきました。もっと自分自身を表現したくなったのです。悲しみ、苦しみ、いじめ、母との関わり、喜びなどいろいろな経験をしてきましたが、それを絵に込めているのです。』と語っていることも紹介。

保健体育

【保健体育：全単元】

体育 聴者のプレーとろう者のプレーの違いの説明。

(例 1)聴者→声掛けをし合う。ろう者→視野を広く見る意識をもつ。

(例 2)技術の習得のポイントをはっきり示す。(聴者は音でニュアンスを伝えることが多い)

(例 3)映像の活用(オリンピック選手などプロ選手の動きを見る)

【保健体育：心肺蘇生】

[デフフードとの関係で新たに加えた実践内容]

他の人への助けの求め方、119 番のアプリを活用した救急隊の呼び方。ろう者ならではの視覚的な呼吸の確認方法。

技術

【技術：情報】

[本来の単元のねらいや内容]

今年度の情報に関する指導計画は、情報収集(インターネット)、文書処理ソフトウェア(ワード)、情報の発信(パワーポイント)、表計算処理ソフトウェア(エクセル)、簡単なプログラミングの学習を通じて技能(作品の構想を考え、制作計画に沿って、いろいろな情報の加工方法を身につける力)を習得する。

[デフフッドとの関係で新たに加えた実践内容]

今までは、個々の学習意欲を高めさせるために、自ら興味がある教材(学習テーマを自ら決定し取り組ませる。)を基に調べた内容をまとめた。今回は、活躍されている「ろう者や難聴者・身体障害者など」の紹介にしぼってまとめるように指導した。

・生徒 A…自己紹介カード 耳の聞こえない自分の紹介、陸上競技で活躍した森本先生の紹介

・生徒 B…自己紹介カード 将来の職業(トヨタ自動車)について、陸上競技で活躍した森本先生の紹介

・生徒 C…自己紹介カード 陸上競技で活躍した森本先生の紹介、漫画の紹介

・生徒 D…自己紹介カード クラスの紹介、NHK、手話ニュースキャスターでもある戸田先生の紹介

- ・生徒 E…自己紹介カード 将来の職業(トヨタ自動車)について、戸田先生の紹介

家庭科

【家庭科：家族の生活と住まい】

[デフフッドとの関係で新たに加えた実践内容]

- ・聴者の家とろう者の家って同じだろうか？それとも違うだろうか？違うとしたら何？
→6人中半数が「違う」と答えた。何がどう違うのか？と理由を聞いた。
- ・「ろう者の家にはインターフォンが音でなく光るものがあるよ。」
- ・「ろう者の家では、テレビに字幕を付けているよ。」
- ・「高齢者の家に行ったとき、テレビの音声とは時間が遅れてだけど字幕が出るのを見たことがあって、聞き逃しても後から字幕が出るから内容がよく分かった、という経験があった。庁舎にとっても字幕は便利ことがある。」

- ・生徒の家のダイニングテーブルの形を聞くと全員長方形であった。家族の人数も多くないので、顔を見て話ができるが、大家族で大きなダイニングテーブルになると端の方は見えにくくなるかもしれない。そんな時、どんな形のテーブルだったら誰から見ても分かりやすいかな？
→・「丸型のテーブルだと全員の顔が見えて話しやすいと思う。」

- ・LDK とは？の学習をする。L はリビング(居間)、D はダイニング(食事室)、K はキッチン

ン(台所)。

三つのタイプの L・D・K について違いを学習する。…①LD +K、②L +DK、③LDK
家族団らんを考えたとき、来客があった時、冷暖房は、料理のにおいや片付けは、といった項目で三つのタイプを考えさせた。

最後にろう者のいる家だったら、どのタイプが暮らしやすいか考えさせると、全員、③の LDK のタイプと答えた。「お互いに顔が見える方がよい。顔が見えるからすぐに話せる、何をしているのか確認でき安心感がある」ということであった。

英語

【英語：ALT に自己紹介をしよう】

[デフフードとの関係で新たに加えた実践内容]

あいさつ、名前等、アメリカ手話での簡単な表現を練習する。「目で学ぶ英語レッスン」、ALT のマーティンさんの本を紹介し、動画でアメリカ手話を学ぶ。自己紹介文、質問文を紙に書き発表する。ゲーム等により、アメリカ手話で表現する。クリスマスやバレンタイン等、日本と文化や習慣の違いを知る。

【英語：Lesson6 Interesting Languages(学校図書「TOTAL ENGLISH3)】

[デフフードとの関係で新たに加えた実践内容]

文法事項は内容を捉えた後に解説した。視覚からの情報提供を意識することで、より単元内容を分かりやすく説明するよう努めた。具体的には教科書の単元内容をスクリーン上で

映像やパワーポイントを使用し解説した。単元概要を知る前に、ペアワークを行い、状況に応じて自分ならどんな表現方法で相手とコミュニケーションを図ろうとするかを考えた。実際の状況を体験させることで他者と話す際のコミュニケーションの取り方、「ことば」の選び方について学習した。正確な情報提供をし、相手に伝えるという観点では、生徒が日々使用する手話と共通のねらいがある。この単元内容を通して、ペアワークでどのような「ことば表現」を使用するのかを確認し、発表を行った。

道徳

【道徳：「五井先生と太郎(学研「中学生の道徳 明日への扉 3年」 pp.154-157)】

[教材の内容]

太郎は入学式の日からずっと、担任の五井先生から、ほかの皆は苗字で呼ばれるのに太郎だけ名前で呼ばれる。太郎は疑問に思いながら反抗したりもした。

3学期、五井先生が入院した。太郎は五井先生に来てほしいとお願いされたのでお見舞いに行った。その時に五井先生からは小学6年の時に太郎が書いた文集のことを言われる。

文集には太郎の父親のことを書いた作文が載っている。ある日、太郎はクラスメイトとケンカをし、相手からは「おめえんちの父ちゃん、母ちゃんは耳聞こえねえだろ。しゃべれねえだろ。一度も名前呼ばれたことねえだろ。これからもずっと呼ばれねえんだろ。ざまあみろ。」と言われる。それを聞いた太郎は家に帰り、父親に向かって「名前を呼んでよ。」と言う。そのとき父親からは「太郎が生まれた時五体満足と知ったとき幸せだと思った。でも太郎の泣き声を聞くことができず悔しかった。だからこそ耳の聞こえない人として最高の生き方をしていこうと決めた。太郎もそうしてほしい。」と言われる。

五井先生はその文集を読んで「太郎の親は聞こえないから、もし自分が太郎の親だったら

と名前で呼び続けていこう」と決めたことを太郎に言う。

[デフフードとの関係で新たに加えた実践内容]

- ・CODA(コーダ)という言葉があることを知る。CODAとは、聞こえない親から生まれてきた聞こえる子供のことである。
- ・実際にCODAの人を呼んで、親の接し方に対してどういう気持ちだったか、どのように接してほしかったか等実体験を話してもらう。

自立活動

【自立活動：障害認識】

[デフフードとの関係で新たに加えた実践内容]

パワーポイント教材を使用。徴兵令により、多くの青年男子が軍隊に招集され戦地に赴く。ろう者の中には積極的に「お国のために役に立ちたい」と徴兵に応じようとした者もいた。しかし、ろう者も含め障がいのある人は、ほとんどが兵役免除(不合格)となったため、周囲の人たちからは「役に立たない『穀潰し』だ」と白眼視された。軍需工場で働くろう者に対して、兵隊にならないものへの差別や暴力が繰り返し行われた。体験した聾者について紹介し、戦時中のろう者差別のすさまじさを知ることにより、差別と戦いながら、勝ち取ってきた人としての権利の尊さを学ぶ。